



専門医養成コース(後期研修プログラム)

コース名：

小児外科専門医コース (小児病院・国内留学制度あり)

■ 病院名

学校法人 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学病院(栃木県那須塩原市)

■ 習得可能な専門医

(コース研修期間中に専門医資格申請要件を満たすもの)

日本小児外科学会 小児外科専門医

(コース研修期間を所定の研修期間に計上できるもの)

日本外科学会 外科専門医

日本周産期新生児医学会 小児外科認定医

■ プログラム概略

3年間で小児外科専門医の受験資格を得ることを目的として、地域に密接する小児外科医療全般を学ぶとともに、小児病院や他施設への留学制度を利用して更なる先端的な小児外科医療を学ぶことにより、次のステップとしての小児外科指導医を目指す。

■ 施設認定

日本小児外科学会 認定施設

■ 指導医師

森川康英 教授、日本小児外科学会指導医・専門医、日本外科学会指導医・専門医、前慶應義塾大学小児外科教授、
日本小児内視鏡外科・手術手技研究会代表世話人、
日本横紋筋肉腫研究グループ代表幹事

柳澤智彦 講師、日本小児外科学会専門医

■ 募集人員

1名

■ 研修期間

原則3年

※うち1年間は、小児病院などへの国内留学研修が可能。

■ 主となる研修施設の特徴

国際医療福祉大学病院小児外科は栃木県北部唯一の小児外科専門施設であり、平成23年小児外科開設後毎年30-40%の割合で症例数が増加している施設です。施設の特徴としては我が国有数のNICUを有し、小児科とともに協力して子供の医療にチーム医療を導入しています。また、周産期部門はハイリスク分娩症例を多く含む年間800例の実績があり、小児外科医の専門性が生かされる施設でもあります。

指導医は我が国における小児内視鏡外科のリーダーであり、また小児悪性腫瘍の専門家でもあることから、多くの内視鏡外科症例を学ぶことができます。さらに、小児に対する内視鏡やmanometryなど専門性の高い手技の研修が行われます。

■ 診療実績(平成24年度)

年間手術症例数 130例 (前年比 140%)

ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸閉鎖、胆道閉鎖症、固形腫瘍、胃破裂などの新生児外科疾患、鼠蹊ヘルニア、腸重積、リンパ管腫、虫垂炎など

■ コース修了時の到達目標

1. 小児外科疾患の診断から治療までの決定過程と診断手技を自らの手で行うことができる。
2. 小児科、産科、新生児科と連携して胎児期からの診断と治療に主治医として関わることができる。
3. 小児救急医療における急性期小児外科疾患の初期医療を担うことができる。
4. 症例報告、学会(国外を含む)発表を行うこと。
5. 小児内視鏡外科治療を指導医とともに術者として実施することができる。
6. 希望により成育医療センターなどの小児病院での研修を行う。
7. 以上を通じて小児外科専門医受験資格としての研修指数、症例数を達成する。

■ 指導医師からのメッセージ

開設3年の新しい小児外科施設ですが、慶應義塾大学と自治医科大学を中心とする施設との連携により、大学や小児病院では体験できない地域医療に密着した小児外科医療の実際を学ぶことができる施設です。小児科、新生児科、産科とのチーム医療を実践しており、出身大学にとらわれないことのないのびのびとした雰囲気での研修が可能です。自主性を重んじた研修を目指しています。

後期研修医キャリア形成例

1年目 国際医療福祉大学病院でのキャリア形成：

専門医の指導のもとに、小児外科に必要な診断技術の習得を行うとともに、乳幼児外科疾患の主治医として治療の実際を学ぶ。鼠蹊ヘルニアや虫垂炎の術者として経験を重ねる。

2年目 他施設でのキャリア形成（例）：

小児病院や他大学小児外科において新生児外科を中心とした症例を経験する。

3年目 国際医療福祉大学病院でのキャリア形成：

原則として新生児を含むすべての手術について指導医のもとで術者として研修を行う。チーフレジデントとして病棟運営を含む他科との連携の窓口となり、臨床カンファレンスの司会もを行い治療計画を主体的に行う。